

5 令和5年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校内評価を実施しましたので報告します。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①知識・技能の習得だけでなく、自ら課題を発見し、他と協働して解決する力などを含む「自ら学ぶ力」を育む学習活動を実践する。</p> <p>②生徒一人ひとりの多様な学習目標や進路希望を踏まえた教育課程を展開する。</p>	<p>①SSHとして行われる探究的な授業を通じて科学的思考力の育成をすすめる。また、対話的な学習などを通じて思考力・表現力を高め、学力の向上をめざす。</p> <p>②の目標を達成するためには、第1学年で幅広い学習が必要になる。その一つの指針として35週総授業数(1120時間)の100%達成を目指す。</p>	<p>①探究の学習のカリキュラムの検討を進める。授業改善のための研究授業や研修を行い、重点スキルを教科ごとに整理して明確化する。</p> <p>②予定総授業数(年間1120時間)の100%達成を目指し、授業確保する。</p>	<p>①重点スキルの共有により、授業力が向上したか。各教科の授業の中で資質・能力を育成する取組が授業評価の結果として表れたか。進学重点エントリー校としての指標は達成できたか。</p> <p>②予定総授業数(年間1120時間)に対する実施授業数の達成率で評価する。</p>	<p>①各学年に応じた探究のあり方を考え、本校としての指導計画の構築をめざした。今年度は「分析力」を伸ばすなど、科学的思考力の育成を進めた。</p> <p>アンケートでは、1・2学年とも8割以上が探究に対して興味を持って意欲的に取組んでいる様子がうかがえる。</p> <p>グループワークやペアワークを適宜行い、生徒が主体的に考え、判断・表現する環境ができた。</p> <p>②35週総授業数(1120時間)については100%達成することができた。</p>	<p>①来年度の探究の時間についてTTのあり方を改善する。</p> <p>生徒が探究の成果などを外部で発表できるように働きかける。</p> <p>エントリー校として各指標について、評価の視点・水準について、概ね達成することができたが、すべて水準を超えることはできなかった。</p> <p>②35週総授業数(1120時間)を達成することができたが、生徒の授業評価の結果等から、探究的な学びに向けた授業改善の取組が課題となった。</p>	<p>①「生徒による授業評価」とは別に、1・2学年の探究の振り返りアンケートも含め、SSHの振り返りを見てそれらを根拠として探究に対して興味をもって意欲的に取組んでいる様子が伺える。</p> <p>①「生徒による授業評価」結果において、第1回と第2回で変化が見られるが、科目を総合的に組み合わせると別の特徴が現れる。科目による依存性が変化するだろう。きっかけが作られれば面白い。</p>	<p>①SSHの取組みについて、「新たな検証・評価方法の導入の検討」や「教科における探究的な学習」などを各教科で議論をしたことにより、少しずつではあるが定着しつつあることが、職員向けのアンケート結果からも表されている。その中で、学校として目指す方向について改めて共有していくことがよりよい推進につながっていくと思われる。</p>	<p>①SSHについての職員研修、「緑の探究」に関わる職員の増加、スクールポリシー及びブランドデザインの修正等により改善する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
2	生徒指導 ・支援	①部活動などを通し、生徒の自主的活動を支援し、人間性や社会性を培い、企画力、行動力の向上を図る。 ②人間性や社会性の醸成基盤となる、安心安全な学校生活が営めるよう、きめ細かな個別支援体制を構築する。	①委員会活動や部活動を通し、生徒が主体的に活動することができる環境を整える。 ②生徒情報交換会・「気になる生徒情報シート」を用いた情報共有の手順を継続しつつ、SC・SSW・教育相談コーディネーター・関係職員等が連携を密にした、継続的な支援が可能な仕組みづくりにとりくむ。	①学校行事、委員会活動の企画や部活動の計画を生徒自らに立案させ実行することができるような支援を図る。 ②SC・SSWの来校日が増えたことによる教育相談業務の変化をふまえ、教育相談業務の役割分担を明確化し、実情に応じた支援を行えるようにする。	①学校行事、委員会活動の企画や部活動の年間計画を生徒自らに立案させ計画に基づいて活動させることができたか。 ②教育相談体制の改良に取り組みつつ、適切な情報共有や支援を関係者と協働して行うことができたか。	①学校行事、委員会活動の企画や部活動の年間計画の様式を準備した。 生徒の主体的な活動の支援を、担任・副担任・教科担当で生徒情報を密に共有し、適切な指導を行った。 LHRを中心として生徒の主体的な活動をおこなった。 ②生徒情報交換会・サポートドックを活用して、支援が必要な生徒を継続的に見守る体制を構築できた。 教育相談コーディネーターが事案に応じてSC・SSWそれぞれに役割を割り振り、より効果的な支援を実施することができた。 SC・SSWの来校日をこまめに広報するなどして、生徒や保護者がSC・SSWの存在をより身近に感じるようになった。 SSWが職員室にも定期的に駐在することで、職員との連携が図りやすくなった。	①生徒自らに今年度中に来年度に向けての各行事の計画を立てさせ、それに基づいて活動できるよう図る ②生活面での生徒の課題が深刻化する前に支援につなげていける体制へ、より改善していくことが課題である。 特に若手教員がどのように支援体制を活用していくかを研修する機会を検討する。 生徒支援の経験が多くない若手の職員が増えていることから、生徒にかかわる不測の事態が起きたとき、職員がどのように対応するかが明確になるように、簡易な手順を職員間で共有する必要がある。	①創立100年を迎えたが、普段の学校生活や学校行事等において主体的に活動する伝統が引き継がれていることが参観や見学から実感できる。 ②生徒支援として、SSWへの相談の需要が多いということだが、今後も相談日を増やしてもらうことは可能か。	①生徒自らが立案した計画に基づき各活動に対して主体的に取り組む姿勢が見られるようになった。 今年度の取り組みを振り返り、課題を整理し改善させる必要がある。	①引き継ぐ内容を整理し生徒同士が互いに話し合い、次年度の計画を立案することができるような支援を行う。
3	進路指導 ・支援	①進路実現に向け、生徒一人ひとりに応じた支援を行うとともに、幅広い教養を持つ大切さや、主体性と人間性の涵養を図る。	①3年間を見通したキャリア教育の実践を図る。	①キャリアガイダンス等の進路行事を通して、3年間で培う力を生徒に意識づける。	①キャリアパスポート等を用いて生徒が自己の成長を年3回以上ふりかえることができたか。	①定期的な集会や講演会での情報発信を通して、生徒が3年間の見通しをもってキャリアプランニングができるよう支援することができた。 模試の解きなおしを促したり面談を実施したりすることで、学習習慣を見直す生徒が増え、生徒の学ぶ意欲を高めることができた。 ①キャリアパスポートに関しては、より細やかに生徒が成長を振り返ることができることに對し課題が残った。	①講演会では外部講師を招くなど、生徒がより広い視野をもってキャリアプランニングができるよう支援する。 ①キャリアガイダンスや大学模擬授業などで学んだことを蓄積し、自分の変容をつぶさに見とることができるようなキャリアパスポートの作成を目指す。	①教員以外の大人の探究活動を招いて学ばせたい希望について、卒業生は人材が豊富であり多様な分野から支援できる。 ①中学校ではキャリアサポートはそれぞれの工夫を行い端末で行っている。 ○高校で一つのことにとこだわって、目標を見失っているケースもある。目標を見つけられることが大切だと思う。	①同窓会と協働し、生徒がより多くの大人と対話することで自らのキャリア形成ができるような取組を実施したい。 ①中学校からのキャリア学習を接続できるよう高校でも教材をポートフォリオ化していきたい。 ○自分の適性を理解しての進路選択や、研究したい学問野との出会いを支援していきたい。	①広報グループと連携し、OBOGと対話できる機会を提供する。 ①キャリア学習の振り返りを定期的に行う声かけをする。 ○進路選択に向けて必要な情報をさまざまな形態で提供する。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月28日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>①地域とともに発展し、信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>②後援組織との連携を深め、学校教育支援体制の充実と地域の人づくりのための貢献を図る。</p>	<p>①学校の教育活動全般を公開することにより地域からの理解をより深める、</p> <p>②後援組織の協力を基に公開講座の魅力が多く生徒や地域に伝わるようにする。</p>	<p>①ホームページをより一層新しい情報の提供や見やすくなるように改善を図る。また、生徒グループと協力し部活動など定期的な更新を進めることができるようにする。</p> <p>②公開講座の魅力が多く生徒や地域に伝わるように情報発信の方法を工夫する。</p>	<p>①ホームページがより一層新しい情報の提供や見やすくなるように改善を図ることができたか。また、生徒グループと協力し部活動など定期的な更新ができたか。(更新率90%以上)</p> <p>②公開講座の魅力が多く生徒や地域に伝わるように情報発信の方法を工夫することで参加者が15人以上だったか。</p>	<p>①ホームページがより一層新しい情報を提供し見やすくなるように改善を行った。その結果、各出来事について1週間以内に発信することができた。しかし部活動の更新については、週1回以上の更新を行うことができなかった。</p> <p>②情報発信の方法を工夫し地域や後援組織等を通じて公開講座の告知を行うことや、平日にも開催することで、実施した2回の合計で68人の参加があった。</p>	<p>①ホームページを通して、部活動等活動状況の更新については、教職員へ講習会を行うことで、更新率を上げる。</p> <p>②魅力的な内容となる公開講座が設定できるよう、後援組織等と協力し、参加者を増やすことで、学校理解を促す。</p>	<p>①町内会でもホームページを立ち上げているので、学校情報を案内をいただければと思う。</p> <p>緑高セミナーについては掲示板には掲示した。</p>	<p>①ホームページを通して学校の教育活動をより早く地域へ発信することができた。</p> <p>部活動の更新率を上げる必要がある。</p> <p>②後援組織の協力を得て公開講座を実施することができた。</p> <p>生徒の参加率がまだ低いので検討が必要である。</p>	<p>①部活動のページの更新率を上げるため大会等の結果のみではなく日頃の活動も発信できるようにしたい。</p> <p>②生徒の参加率が低い原因をアンケート等で調査、改善できるようにしたい。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①全職員が参画し、組織的・機動的な学校運営体制を推進する。</p> <p>②生徒・保護者に信頼される学校を維持するために事故不祥事防止に取り組む。</p>	<p>①生徒の学校生活が安定して継続できるように学習、課外活動や進路に対する支援体制の構築をめざす。</p> <p>②さまざまな視点での事故や不祥事防止への意識を職員間で共有することにより、信頼される組織をつくる。</p>	<p>①教員の研修機会を確保して組織的な学校運営を目指す。また、必要に応じた設備の整備などを進める。課外活動や進路に対する支援体制の構築をめざす。</p> <p>②日常から職員間での声掛けにつとめて、気になることを放置しない雰囲気づくりに努める。過去の事例に倣い、事故防止に向けた方策をたてる。</p>	<p>①研修会や情報交換が、昨年度より活発に行えたか。オンラインなどの授業が滞りなく実施できたか。</p> <p>②事故防止の意識啓発を、月に1回以上実施することができたか。事故の防止のための方策が明確に示されたか。</p>	<p>①生徒情報の交換会や情報共有について、体制を構築することができたが、学校運営に向けた教育目標等に関する研修会を組織的に実施することはできなかった。</p> <p>②事故防止の意識啓発については、場面に応じた研修を通して未然防止に努め、その結果事故不祥事等はなかった。</p>	<p>①教職員向けの、年間を通じた計画的な探究活動の研修が行われなかったことを踏まえ、本年度中に次年度の計画を用意する。</p> <p>また、全教員で取り組むことを目指して、共通理解を深めるための研修をすすめる。</p> <p>②今後も事故防止に向けた取り組みが自分事として捉えられるような研修を計画する。</p>	<p>②大学でも個人情報ダブルチェックを徹底させて、事故防止に向けた取り組みをかなり行っている。ミスを事故にしないことや相談できる体制が大切である。</p>	<p>①SSWが配置されたことで、多様な生徒の情報を入手することができるようになったが、職員間での情報共有については、関係する一部の職員にとどまり、組織的に対応することができなかった。</p> <p>②事故防止の啓発は頻繁に実施するだけでなく、円滑な報告によって、ミスを事故にすることなく対処できたが、ミスを減らす取り組みについては課題となった。</p>	<p>①年間行事予定表に職員研修等を組み入れて、見通しを持ち組織的な取り組みとなるようにする。</p> <p>②事故防止に向けた標語を職員に募集するなど、自分事とする取組を行う。</p>